1万キロ現地調査第27回（群馬）報告　【調査会NEWS1938】(27.7.27)

（群馬に係るものだけ抜粋しています。）

以下現地調査の報告です。ご協力いただいた皆様にあらためて御礼申し上げます。

1　目的

(1) 現地調査により個々の事件及び北朝鮮による拉致・工作活動への認識を深める。

(2) 広報啓発活動を通し今後の工作活動を抑止する。

(3) 現地で特定失踪者家族・政府認定者家族他関係者から北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」のメッセージを収録する。

2　参加者

(1) 調査会：代表荒木和博・副代表岡田和典・専務理事村尾建児・常務理事杉野正治・同武藤政春・同曽田英雄・　計　6名

(2) 家族会：増元照明　前家族会事務局長

3　調査対象者及び調査結果

＜1＞ 横田道人

(1) 氏名：横田　道人　（よこた　みちしと）

(2) 生年月日：1946（昭和21）年7月21日　（現69歳）

(3) 当時住所：群馬県碓氷郡松井田町

(4) 当時身分：会社員

(5) 失踪年月日：1970（昭和40）年1月27日（火曜日）

(6) 失踪場所：群馬県安中市・群馬銀行安中支店前バス停

(7) これまで明らかになっていた失踪状況

群馬大学工学部応用化学科を卒業し、東邦亜鉛に入社して１年後。

当日は給料日、会社の昼休みに安中駅前郵便局に預金している。残業後午後７時頃、安中市内の電器店にステレオの月賦を支払い、松井田駅行きのバスで帰宅する予定だった。午後７時 30 分頃、電器店前のバス停に立っていたのを同店主が見届けたのを最後に行方不明となり、その後全く手がかりなし。

■調査結果

道人さんの妹さん夫妻も現地調査に同行し、当時の道人さんの状況を再度確認するとともに最後に立ち寄ったとされる電気店で当日の細部状況を改めて聴取し、これまで明確になっていなかったことや新たに判明した事項を確認した。

(1) 当時道人さんは松井田町の実家と安中市の会社寮と両方で生活していた。

(2) 行方不明となった当日、来店の細部時刻は不詳だが道人さんは会社終了後、群馬銀行安中支店前の電気店に立ち寄り、月賦で購入していたオーディオ機器の当月分の支払いを済ませたあと、経営者の妻（故人）が勧めるままに店内で出されたお茶を飲みながら店主の娘さん（健在）も交えて音楽の話などをして、閉店時間の午後８時頃に店を出ている。

(3) 道人さんが店を出た直後に経営者の妻と娘さんがシャッターを閉める際、群馬銀行安中支店前のバス停（高崎市内方面上りバス停）に立っているところを娘さんが現認していた。

(4) 従って自宅（反対方向）に行くのでも、あるいは徒歩数分の寮に行くのでもなく、別の用件で高崎市内などに赴く必要があったものと思われる。ただし、ここから高崎市内まではバスで約 30 分かかり、下りの終バスはこのバス停を 21 時半頃だったので、短時間の用事であったと推測される。

＜２＞ 加藤八重子

(1) 氏名：加藤　八重子　（かとう　やえこ）

(2) 生年月日：1940（昭和 15）年９月 20 日　（現 74 歳）

(3) 当時住所：群馬県群馬郡群馬町北原（現：高崎市北原）

(4) 当時身分：主婦・高崎電報電話局・局員